東京家政学院大学紀要　第 43 号　2003 年　自然科学・工学系　抜刷
（2003 年 8 月発行）

空間装飾としての花について

山　口　智　子

空間装飾としての花について

山　口　智　子

はじめに

本稿は，空間装飾としての花について，文献・資料，具体的事例をもとに，現代の日本人の花に対する意識を通して考えるものである。

近年，ガーデニング，フラワーアレンジメント，フローラルデザインという言葉をよく目にする。それは新聞の広告であったり，書店に並ぶ雑誌や書籍であったり，花屋やスクールの看板など様々である。それと同時にホテルや百貨店，レストランやカフェなどで花が飾られている場面にもよく出合うようになった。

インターネットショッピングのギフトページには必ずフラワーギフトが紹介され，通信販売対応の花屋が何百件と表示される。このことは花の需要の高さを知る一つの指標ともいえるだろう。また,インターネット書店で「花屋」というキーワードで検索すると，花屋が書いた本，花屋になりたい人のための本が数十冊みつかる。ここ最近の女子児童の将来の夢は「お花屋さん」が必ず上位にあるらしい。

なぜ日本人はこんなにも花が好きなのだろうか。花を贈ったり，花を飾ったりすることの意味はなんであろうか。

千葉大学園芸学部の安藤敏夫教授は,『ヒトと植物の「遊好」関係』のなかで,「花は心のメッセンジャーである」と述べている。ヒトは花のあるところは安全であると感じ，花が飾られていると自分を歓迎してくれていると判断するものなのだそうだ。そして，花はヒトの心を伝達するが,「喜怒哀楽」のうち「怒」だけは花で表せないこと,正の感情は伝えられるが負の感情は伝えられないことを指摘している。花にまつわる様々な場面を思い起こしてみると，安藤氏の見解はまさに先の疑問の解答であるように思える。この解答を確かなものにするため，本稿では以下の順序で考えをまとめることとする。

第一章では，いけばなの文化史に関する文献から日本人と花のかかわりについて，歴史的背景を検証し，またインターネットショッピングにおける花の扱われ方から現代人の花への意識を検証する。第二章では，飾られる花として生花の対極にある造花について，その種類を分類し，大衆の中の造花と手工芸品としての造花をを考える。第三章では，第二章を受けて，いけばな教室の生徒を対象に行った，造花に対する意識の聞き取り調査の結果をもとに，生花の価値，生花である意味について述べる。第四章では，花が飾られている場面の事例を示し，飾られた花に対する人々の反応から花を飾る意味について考える。

1.　日本人と花のかかわり

1-1 飾る花の成立

『日本いけばな文化史１－いけばなの成立と発展　いけばな文化史年表』によると，日本人と花のかかわりは４つのことから始まっているようである。それは①仏教伝来以前の神事　②仏教伝来以後の供花③宮中の花合わせ④『枕草子』に見られる花を瓶に挿す，という行為である。これらは同時に千年もの間続き，室町時代に入って花を立てる，花をいけるという言葉が使われ始めた。桃山時代に入って派生した茶の湯の花は，江戸時代中期にいけばなの形式が確立され枝別れしていく。大正時代に入って自由にいける自由花という形式が起ると，それまでのいけばなにはなかった異素材を組み合せたアート的いけばなが多く見られるようになった。

人文学部工芸文化学科

いけなば作家という地位の確立もこのころである。第二次大戦後になって精神的，経済的余裕が出て来た時にいけばな人口は増加し，前衛的ともいわれた新しいいけばなの手法は，商業空間の装飾として多く用いられるようになった。
いけばな各流派は伝統と格式を守りつつ新分野開拓のための研究と作品発表を盛んに行い現在に至っている。

1-2 インターネットに見るフラワービジネス

インターネットが普及したことでもっとも利便性を感じるのは，各種情報を簡単に手に入れられることと，家にいながらにして買い物ができるということではないだろうか。インターネットを活用した通信販売で扱う商品の項目は膨大な数である。その中にはもちろん植物も扱われており，主力商品は花のギフトである。売り手側は「気持ちを花に込めて贈りませんか」や「気持ちを伝えるフラワーギフト」と言った言葉で購入を勧めている。込める気持ちは「感謝の気持ち」や「お祝の気持ち」であり，花を贈る対象者も「大切なあの人へ」「大好きな人へ」とある。どこにも「怒りを込めて」や「大嫌いなあの人へ」といった負の気持ちは書かれていない。このことは本稿の「はじめに」で触れた安藤氏の「花は正の感情は伝えられるが，負の感情は伝えられない」という見解のわかりやすい例と言ってよいだろう。

1-3 まとめ

花は，神の依代（よりしろ）として儀式に使われ，仏前に供えられ，ゲームに使われ，ようやく瓶に挿して飾られた。花を何かのかわりとして使っていたのが，花を花として楽しむように変化して来たように感じられる。そして茶の湯の花のころから，季節感を演出し歓迎の気持ちを伝える花が登場したと言える。いけばなの発展は家庭の玄関や公共の場所においての，客を歓迎しもてなす花を誕生させた。

現代にいたっては，貿易の発達，品種改良等技術の発達などにより花の種類，量とも増大し，運輸，通信の発達によって誰でも花を手に入れるのが容易になった。このことによって，花はもっとも手軽で無難な贈り物となり，感情をストレートに表現することが苦手な日本人の代弁者として大活躍することになった。

2. 造花という存在について

2-1 生花と造花の関係

造花とは文字どおり「作られた花」である。素材を組み合わせて人工的に組み立てられた生花を模したモノである。

図１は生花と造花の関係と生花の加工品の位置付けを表したものである。

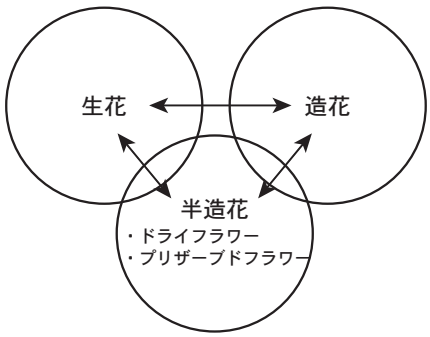

図１：生花と造花と半造花の関係

ドライフラワーやプリザーブドフラワー（プリザーブドフラワーとは，特殊な溶液を花に吸い上げさせて水分と色素を抜いた後，保存料と色素を再び吸い上げさせたもので，生花のような弾力と瑞々しさが 20 年ほど保たれるもの。）は生花を加工したもので，本稿では半造花という呼び方をする。図では，生花と造花は相対しており，半造花は生花にも属すが生花とは相対している，と同時に造花にも属すが造花とも相対している存在であることを示した。これは，生きている，生きていないという観点からいえば生花と造花は相対するものと考えられるからである。一方，造花と半造花の関係は，素材の観点から見て人工的な材料から作られた造花と，生花に手を加えた半造花は同じものとは考えにくく，特にプリザーブドフラワー（写真 1）は生花のような見た目や感触ということから更に造花とは言い難く感じることから相対する関係と位置付けた。

写真１：プリザーブドフラワー「フローラルデザインの研究」より

本稿では，生花と生花以外のものについて考えるため，半造花は造花に含めて述べていくことにする。

2-2 造花の種類と分類

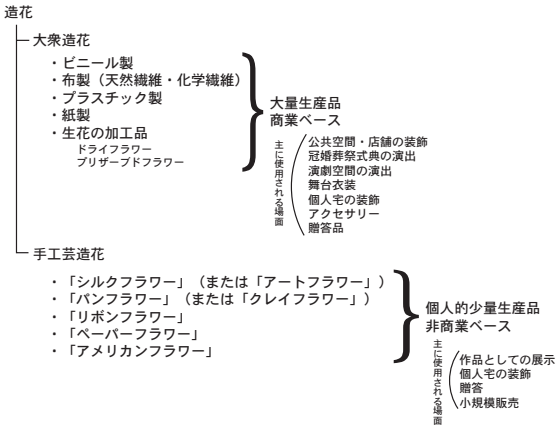

図２：造花の種類と分類

図２は造花の種類と分類を表したものである。この中では造花を大きく二つに分類し，「大衆造花」と「手工芸造花」とした。大衆造花とは，ビニール，プラスチック，布（絹，化繊），紙，粘土，生花加工品からできており，大量生産され，販売の形態も商業ベースに乗ったものである。大衆造花の使用される場面は，店舗や公共空間の装飾として，冠婚葬祭時の演出として，舞台の大道具，小道具として，家庭における装飾として，アクセサリーとして，贈り物として，などである。一方の手工芸造花では使用素材が呼称，名称となっており，絹地を使用したシルクフラワー（写真２），食用のパンに絵の具や糊を混ぜて形作ったパンフラワー（写真３）（現在では粘土も使用し，クレイフラワーとも呼ばれている。），リボンフラワー，ペーパーフラワーがある。他には，花びら型に輪にした針金に特殊なディップ液で膜を張った，ガラスのような光沢のあるアメリカンフラワーというものもある。

写真２：シルクフラワー（「フローラルデザインの研究」より）

写真３：パンフラワー（「フローラルデザインの研究」より）

これらは個人の趣味として作られるもので，作品展示会や個人宅の装飾として見られる事が多い。贈答品として専門店での小規模な販展開も考えら

れる。

2-3 まとめ

手工芸造花は，花をモチーフとした手工芸作品である。花を飾るためということよりも，いかにして本物の花に似せて美しく作れるかが主体となっている。これに対して大衆造花は，使用される場面はどこも生花に置き換える事が可能であり，生花の代用品と言える。

3. 生花の価値，生花の意味

3-1 いけばな教室での造花に関する聞き取り調査

いけばなをやっている人は造花を嫌うという説を以前に聞いたことがあった。それはなぜなのか，具体的な理由と，彼等が生花と造花の違いをどのように受け止めているのかを知るために，「自分で造花を飾ろうと思うか」「なぜそう思うのか」「造花に対してもっているイメージはなにか」という質問をした。

調査対象は，都内個人宅のいけばな教室に通う 6 名で，【　】内は，年齢 / 性別 / 職業 / いけばなをやっている期間である。

1.【31 歳 / 女性 / バレエダンサー /8 カ月】
・造花を飾ろうとは思わない。
・バレエでは造花は身につけるものという存在。衣装の一部である。
・造花には動きがない。
・造花は生き物ではない。
・造花が飾られているのを見ると残念に思う。
・生花が飾られていると，花の色や香りで元気が出る。
・バレエの公演の時に造花を贈られるということはまずない。
・バレエ公演の時，出演者に贈られたスタンド花を通路に飾って会場のはなやかさを出したり，出演者の人気度をあらわしたりするが，この習慣は海外にはない。

2.【30 歳 / 女性 / 料理・菓子研究家（パリ在住）/8 カ月】
・造花を飾ろうとは思わない。
・造花は安っぽい感じだから。
・パリでも造花が飾られているのを見かけるが，そこはしけたカフェである。

3.【31 歳 / 女性 / 大学助手 /8 年】
・造花を飾ろうとは思わない。
・造花には安っぽいイメージがあるから。
・造花は飾りっぱなしでほこりを被っているイメージ。
・手入れがされていれば造花が飾られていることに異論はない。
・個人宅で飾る造花と公共の場所で飾る造花の意味は違うように思う。

4.【27 歳 / 女性 / 会社員 /7 カ月】
・造花を飾ろうとは思わない。
・造花はほこりっぽいから。
・いけばなを習い始めてからレストランなどで，飾ってある花をよく見るようになったが，さわってみて造花だとわかるとよくできていると感心する。
・結婚式に参列した際，フラワーシャワーに造花の花びらを使用していたのに出合って嫌悪感を感じた。

5.【女性 /42 歳 / 草月流師範 /25 年】
・造花を飾ろうとは思わない。
・造花はかわいくない。
・造花ははかなくない。
・造花には生命感がない。
・造花には時間の経過が感じられない。
・造花には水を感じない。
・造花にはみずみずしさがない。
・造花を飾るとしても，本物の花を知らないとリアルに飾ることはできない。
・ホテルなどの場合は，生花を飾っているか，造花を飾っているかで格式が決まる。
・造花のよいところは経済的，物理的安定性。
・造花は色の再現性に乏しい。

6.【35 歳 / 女性 / 大学助手 /10 カ月】
・造花を飾りたいとは思わない。
・生花にはつぼみが開くとか枯れるという変化があるが，造花にはそういった変化がない。
・造花には表情がない。
・造花には体温を感じない。
・造花は「造花だ」としか思えない。
・生花だと思って近づいて，それが造花だった時

にはがっかりした。
・レストランやホテルに飾られている花は人を迎える役割があると思うので，生花の方が好ましいと思う。

3-2 まとめ

今回の聞き取り調査では人数も少なく，性別，年齢，いけばな歴ともに偏りがあった。しかし，日頃花に関わっている人の生の声を聞く事ができたと思う。

結果は，全員が「造花を飾ろうとは思わない」という回答であった。造花に対して持っているイメージは，生花と比較して造花はこうであるという言い方がほとんどで，このことは造花のイメージを裏返すと生花の魅力を語っていることになる。

回答をもとに考えると，生花は

・生き物である。
・動きがある。
・表情がある。
・生命感がある。
・瑞々しさがある。
・つぼみが開く，枯れるという変化がある。
・時間の経過を感じる。
・はかない。
・高級感がある。
・水を感じる。
・体温を感じる。

というものであることがわかる。ただひとつ，造花のよいところをあげたコメントに「経済的，物理的安定性」というものがあったが，これは造花には季節による価格の変動が無く，枯れることもうっかりひっくり返して水をこぼしてしまうこともないという意味だそうで，裏返してみると生花のデメリットになっている。

以上のことから，生花であることの意味は，瑞々しさや時間の経過を感じさせることであり，生花の価値は「生きている」ということであると言える。

4.　東京家政学院大学多摩キャンパスにおける花の事例

4-1 卒業式の花

平成 15 年 3 月 18 日（短大）・19 日（大学・大学院）の卒業式で飾られた花の事例を示す。

写真 4：式典会場入り口の迎え花

写真４は式典会場の入り口に設置された「迎え花」で，卒業生へのお祝いの気持ちと来校者を歓迎する気持ちを表している。その他にも会場を華やかにする役割を担っている。

写真 5：花と一緒に写真を撮る風景

写真５は迎え花をバックに卒業生の写真を撮っている場面である。この母子の他にも，友人同士での撮影，恩師を交えての撮影，娘が母を写す，といった場面が数多く見られた。

写真 6：壇上の花

写真６は卒業式会場舞台の上に飾られた花である。これもお祝いの気持ちと華やかさの演出の花である。

写真７：創立者銅像の前の花

写真７は大学創立者大江スミ先生の銅像の前に飾られた花である。歓迎とお祝いと式典の雰囲気作りの役割を持っている。

写真８：一輪挿しのバラの花

写真８は卒業式会場とお手洗いに置かれた花である。お祝いと歓迎の気持ちを表しているとともに，バラをモチーフにした校章とその由来を記したカードを添えているため，来客に大学のことを知って欲しいという気持ちも込められている。

4-2 まとめ

卒業式の迎え花はこの年が初めての試みであったが，迎える側の教職員からは「会場が華やかになる」「よい記念撮影場所だ」といった感想が聞かれた。迎えられる側の反応は，花の前で記念撮影をするといった行動であったが，これは好意的に受け止めていると考えられるだろう。言葉での感想は聞かれなかったが，入場をそばで見ていると花を見て誰もが少し驚き，次に笑顔を見せてカメラを取り出していた。花の前は一時，記念撮影の人で混雑する程であった。その他に飾られた花も含めて卒業式における花は，特別な日である印象を与え，華やかさとともによい緊張感を感じさせる演出効果があると言える。

おわりに

この研究で分かったことは，まず第１章では，儀式に使われていた花が時代を経て場の装飾や雰囲気作り，さらに気持ちを伝える役割を持つようになったということであった。次に第２章と第３章では，物理的状況や経済的理由で生花の代わりとして造花が用いられる場面があるが，生花であることが大変重要で，造花であるとマイナスの印象を持たれてしまうことがあるということがわかった。ただし，造花の中には手工芸作品としての価値があるものがあるということもわかった。第４章では，思いを込めて飾られた花がその役割を果たし，期待以上の効果をもたらした好例を示している。

花はあるとうれしいが，なくても困らないものである。一般的に，経済的余裕がなくなると削減されるのが花ではないだろうか。しかし，経済的に苦しい時こそ，花を飾ることで精神的余裕を感じさせ，見る者に好印象を与えるのではないかと思う。花を飾るということは，気持ちを表すと同時に余裕があることも示していると言えるだろう。

しかし，飾る場合の花は生花である方が良いようである。見る側は生きている花であることを期待しているのである。安価で手間のかからない造花が飾られていると，自分が軽く見られているのではないかと思ってしまうのではないだろうか。だが造花でも高品質な，触るまで造花とわからないくらい精巧な手工芸品の場合は，見る者に驚きと感動を与えるだろう。そういった手工芸造花ならば，書画骨董には及ばないまでも，来客を歓迎する気持ちを表す役割が果たせるのではないだろうか。

今後注目したいのはプリザーブドフラワーである。更に技術が向上し，価格ももっと下がった時にその他の大衆造花はどうなるのだろうか。生花に最も近い造花が巷の造花に取って代わるのだろうか。

参考文献・資料

「ヒトと植物の『遊好』関係」安藤敏夫（草月 243 号（1999／4）～ 248 号（2000／2　草月出版）
(http://www.h.chiba-u.ac.jp/florista/ohanashi/sogetsu/hanashi4.html)
「フローラルデザインの研究」渋谷明（東京家政学院大学人文学部工藝文化学科平成 12 年度学士論文）
「花文化に関するデザイン研究－生花店の提案を目的とする－」石塚真知子（東京家政学院大学人文学部工藝文化学科平成 7 年度学士論文）
「日本いけばな文化史 1 －いけばなの成立と発展」工藤昌伸著 / 同朋社出版 /1992.11.14 発行
「日本いけばな文化史 5 －いけばなと現代」工藤昌伸著 / 同朋社出版 /1995.12.20 発行

［インターネットサイト］
アメリカンフラワー
http://www.tohpe.co.jp/pages/jigyou/american/american.html
アートフラワー
http://www.m-benihana.co.jp/art_flower.htm
パンフラワー
http://www.ritzs.co.jp/index.html
プリザーブドフラワー
http://www.kyoka-craft.co.jp/
その他
http://emi.h.chiba-u.ac.jp/Fsite/FSwelcome.html
造花
http://www.zouka.org/indexup.htm
http://www.jic-gifu.or.jp/np/newspaper/news/2002/0513.htm
http://www4.ocn.ne.jp/~zimmer/0011FA/artindex.html
http://www.miyuki-st.co.jp/index.html
http://www.jic-gifu.or.jp/np/newspaper/news/2002/0513.htm
http://www.t3.rim.or.jp/~sue/tmenu.htm
http://www.citydo.com/prf/tochigi/guide/sg/160000253.html
http://www.aoisora.co.jp/main/hpdisplay.htm
http://homepage2.nifty.com/mukae/gyoji/koro.htm
インターネットショッピング
http://shopping.yahoo.co.jp/flowers_and_plants/